



多摩辺

昭島市立多摩辺中学校

校長 喜多野 雅司

平成26年12月24日

明日への希望を抱いて ～ 新たな年を迎える前に ～

いよいよ明日は終業式、長い二学期を締めくくる大切な時となりました。そして、次に続くのは誰もが楽しみにしている冬休みです。しばらくの間、ご家庭や地域での暮らしがメインとなりますが、子ども達には明日への希望を抱きながら、新たな年を迎えてくれればと願っております。

* * * * *

約1カ月前になりますが、長野県内で震度6弱の大きな地震が発生しました。この影響で、日頃よりお世話をしてくださっている小川村も厳しい状況（建物半壊：7～8軒、壁等のひび割れ：数百件 他）が生まれています。

時として、自然の驚異は私達に思わぬ形で襲いかかることがあります。そんな自然と共生していくには、日々の暮らしの中で「ぬくもり」をキーワードに、つながりを強くしていくことが必要とされるはずで、今回の災害を受けて、本校では生徒会が募金を呼びかけ、小川村の皆様へ心を込めさやかな気持ちを届けたところです。

ところで、この「ぬくもり」の心は、私達の普段の暮らしでも勇気や希望を与える大切な存在です。以下に、市内の「中学生人権作文コンテスト」で最優秀賞に選ばれた作品を紹介させていただきます。

「虐待のない世界に」 2年 井上 満通 さん

最近、幼い命が失われた事件をニュースや新聞でよく見かけ、事故に巻き込まれたものも多い。だが、それと同じくらい、親に虐待され、未来ある幼い命の火が消えていく事件が増えている。私は、その親達が許せない。大人の勝手な都合でなぜ、子供が命を落とさないといけないのか。なぜ、罪のない、生まれでできた命が未来を奪われないといけないのか。私には分からない。

そもそも児童虐待とはどういうものなのか。大きく分けて「身体的虐待」と「心理的虐待」の二つに分けられる。

まず、「身体的虐待」について説明する。身体的虐待とは保護者が子供に、殴る、蹴るなどの暴行をする。周囲から分かりやすく、顕在化しやすい。だが、服の下に隠れていて分からないものもある。

次に、「心理的虐待」について説明する。心理的虐待とは、保護者が子供に大声や脅しなどで子供の心を恐怖に陥れる。子供の心を死なせてしまうような虐待。周囲からは分かりにくい。

この二つの虐待は、やり方は違うが、子供の体や心もボロボロにしてしまうのには違いない。私は親になったことがないので、親の気持ちや大変さは分からない。だが、どんな理由があったとしても、自分の子供に暴力をふるったり、心を死なせてしまうようなことは絶対にしてはいけない。私達子供は、親のものではない。子供にだって意思はある。人権だってある。親の勝手な都合で殴ったり、蹴ったりしてはいけない。私達子供にとっては、お母さんとお父さんは世界でただ一人しかいない。誰に殴られるより、誰にひどい事を言われるよりも、お母さんとお父さんにやられるのは、辛く悲しい。自分を生んでくれた人には愛してほしいと願うのは当たり前だと思う。私は、お母さんやお父さんに愛されたいと自分でも思える。だから、虐待を受けている子の苦しみ、悲しみ、痛みは分からない。でも、もし、私がそうになったら、きっと悲しくて、心から大切なものが欠けていくと思う。お母さんとお父さんへ「なぜ」「どうして」という思いで頭の中がいっぱいになる。でも、それでも「愛してほしい」と願うと思う。大切なものが欠けていくと思う。

お母さんとお父さんへ「なぜ」「どうして」という思いで頭の中がいっぱいになる。でも、それでも「愛してほしい」と願うと思う。想像だけでも、胸が苦しくなる。私が今、学校に行って、友達と笑い合っている間にも親からの虐待に苦しんでいる人達がたくさんいる。では、私達は虐待に苦しむ子供達を助けるためにどうしたらいいのか。

私は、一番大切なことは「周囲の人達の目」だと思う。子供達は自分から「助けて」と叫ぶことができないかもしれない。だからこそ、周囲の人達が「おかしいな」と思ったら、本人に聞くのではなく、児童相談所に相談するのが良いと思う。ほんの少しの不安でも迷わずに相談するのが大切である。その勇気で一人の大切な命の火が消えずにすむかもしれない。だから、地域のみなさん、私達子供のことを見守っていて下さい。

虐待は、決してやっつけられない行為だ。子供を苦しめ、傷つけ、命さえも奪っていく。命は助かったとしても、子供の心に深く、消えることない傷を残す。体につけた傷ならいつか消えるかもしれない。しかし、心についた傷は一生消えることなく、自分自身を一生苦しめる。自分の子供にそんな未来を与えないで。どうしても、虐待が止められなくて、怖くなって、苦しんでいる親がいるなら、施設にあずけたらいい。確かに、子供を一度捨てることになるかもしれない。でも、子供の生きる未来と、苦しむ親の心を救える。一度距離をとって、お互い別の環境で過ごしてみるのも大切である。それからまた、一から家族になれば良いと思う。

私は、将来、児童養護施設の先生になりたいと思っている。理由は、虐待を受けた子、親を失った子の心を癒し、生きていく居場所をつくりたいから。その子供達の痛みが分かるわけではないが、少しでも「幸せ」になれる手伝いをしたい。私は、私ができることをして、少しでも虐待を受ける子供を救いたい。それが、私の夢だ。

世界中の虐待を受け、苦しむ子供が一日でも早く救われますように。あたりまえの「幸せ」を手に入れ、生きられるように。人は誰でも幸せになる権利を持っているのだから。その権利を、生きる権利を奪わないで。どうか、虐待を受けている全ての子供達、虐待を止められずに悩む親達に、幸せな未来が訪れますように。



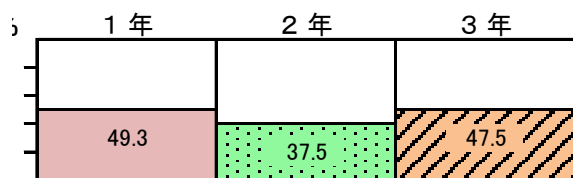
引き続き、三学期も子ども達に寄り添いながら、しなやかな心が育っていくよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。

「保護者アンケート」 ～ ご協力、ありがとうございました ～

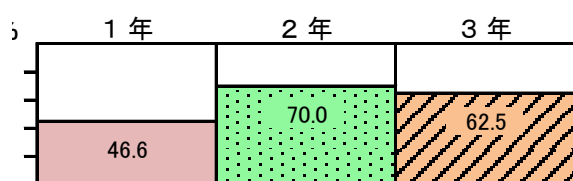
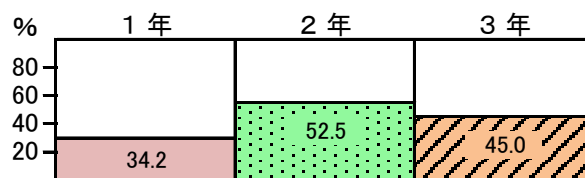
保護者アンケートの集計結果の一部を以下に掲載しました。この結果については、学習・生活の各分野の指導に役立てていきたいと思っております。

ご多用にもかかわらずご協力くださり、本当にありがとうございました。

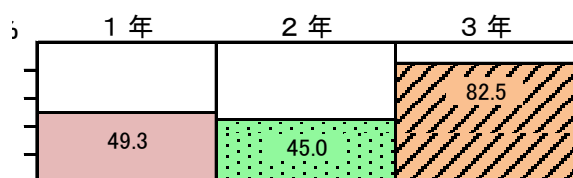
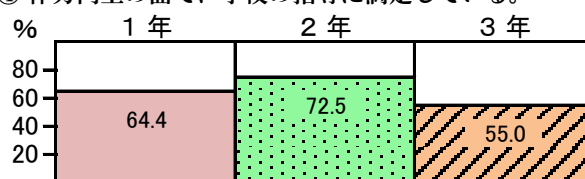
～ 「そう思う」 or 「だいたいそう思う」と回答した割合 ～



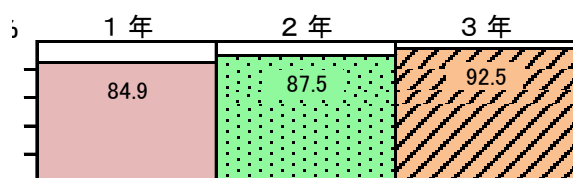
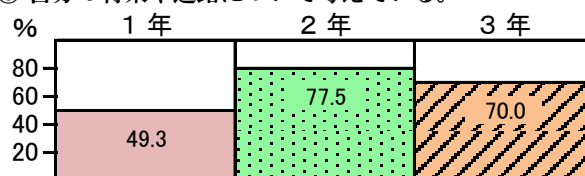
② 家庭学習の習慣が身についている。



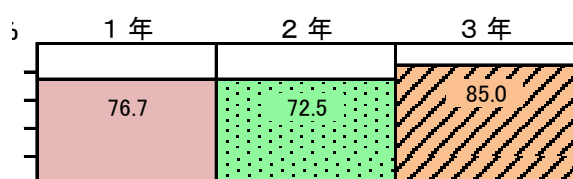
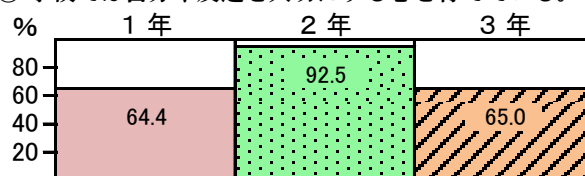
④ 体力向上の面で、学校の指導に満足している。



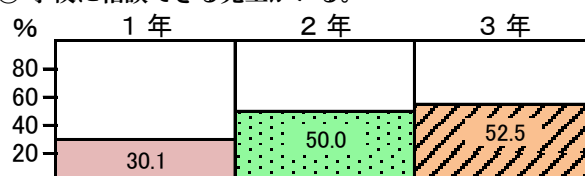
⑥ 自分の将来や進路について考えている。



⑧ 学校では自分や友達を大切にする心を育てている。



⑩ 学校に相談できる先生がいる。



注

①, ②は学習に関する設問で、校内の学習環境の充実を図りながら、学習への関心・意欲が高まるよう工夫していきたいと思っております。また、③の結果から、引き続き「食育」の充実を図り、学力・体力向上にまで結び付くよう力を注いでいく考えです。
⑤, ⑥は進路に関わる設問で、学年進行に伴い肯定的な回答が増加傾向にあります。特に第2学年において生徒の発達段階に即してキャリア教育の充実を図ってまいりたいと思っております。

⑦～⑩は主として人とのかかわりについての設問で、生徒が抱える課題や悩みをていねいに受け止める環境(教育相談体制)が充実するよう取り組んでいきたいと考えております。

なお、同時期に実施した生活アンケートの結果から、1日に1時間以上メールのやりとりをしている割合は

1年生：50.4%、 2年生：46.8%、 3年生：48.9%

の状況でした。引き続き、高度情報化社会の中での「危険を回避していく力」の育成に取り組んでまいります。ご家庭でもご配慮のほどよろしくお願いいたします。